

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042・464・8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp

田無公民館 南町5-6-11 ☎042・461・1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp

芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042・461・9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042・421・3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp

ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042・424・3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp

保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042・421・1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

時と人の往来

～古くからある道をいく～
その1 石仏をたずねて

道幅が広がり、舗装され、形状は変わりましたが、市内には、鎌倉街道、清戸街道、富士街道、鈴木街道、深大寺道(深大寺街道)など、市域と市域外の地域を結ぶ古くからの道があります。

編集室では、旧保谷市域内の古くからある道、横山道(鎌倉街道)、深大寺道(深大寺街道)、鈴木街道をたどってみました。道沿いには、道しるべにもなった石仏や石塔がありました。

今はきれいに整備され、昔の面影をとどめていませんが、石仏を探しながら、人々が行き来した古くからの道を歩いてみてはいかがでしょうか。



③ 駒止橋

新川(「ふかん堀」と呼ばれていました)が横山道を横切るところに、「駒止橋」と呼ばれる石橋がかかっていました。橋の北側には弁天池があり、馬に乗ったまま石橋を渡ろうとすると、馬から引きずりおろされたそうです。現在、石橋の一部は宝光院の山門の右側にあります。



① 題目馬頭観世音塔

1834(天保5)年、1869(明治2)年の下保谷村絵図に「死馬捨場」とあるところに造立されました。供養のために建てられたと思われます。



④ 青面金剛庚申像

市内で唯一の青面金剛全身像で、1714(正徳4)年に上保谷村庚申講中18人により造立されました。上保谷村の中心であった「榎の木」と呼ばれた地域にあったことから、「榎の木の庚申様」と親しまれました。1945年4月の米軍の爆撃で、3腕を失いました。



⑥ ほうろく地蔵(地蔵尊像)

通称「文化通り」(江戸時代は「札野道」と呼ばれた吉祥寺方面への道)と深大寺道が交差するところにあります。頭光(頭部にある光背)がほうろくに似ていることから「ほうろく地蔵」という名がつけられました。

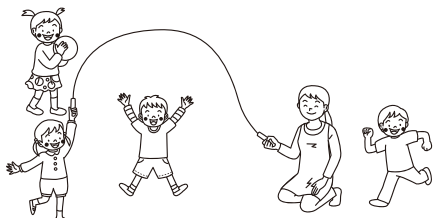


⑧ 阿波洲神社

1752(宝暦2)年、新田開発が進み、屋敷を持った村民の村鎮守として勧請されました。別当寺(社僧のいる寺)は、親村上保谷の宝光院でした。



⑨ おおぞら公園
ジェットエンターテインのモニュメント
おおぞら公園の中央に設置されています。



②

はなバス バス停「横山道」
はなバス第2ルート循環ルートのバス停留所。



⑤

六角地蔵石幢

ほぼ正六角形の石柱で、各面の上部に6体の地蔵菩薩立像が浮き彫りにされています。1795(寛政7)年に建立され、富士街道と深大寺道が交差するところにあり、道しるべを兼ねていました。



文字庚申塔

新町の全域は、1724(享保9)年から上保谷新田として開発された新田村です。

この塔は、1784(天明4)年に五日市街道から上保谷新田に入る道(鈴木街道)の入口に新田村全戸により建立されました。1998(平成10)年に道路拡幅に伴い、現在の場所に移されました。



〔深大寺道(深大寺街道)〕

旧保谷市内から始まり、旧田無市との市境を通って、調布市の深大寺、布田五宿に至る道。深大寺に参拝する道が、いつしか「深大寺道」「深大寺街道」と呼ばれるようになりました。

〔鈴木街道〕

小平市鈴木町(江戸時代は鈴木新田)に向かう道